

1. 最初に、あなたご自身の健康をどのように考えているかを教えてください。以下のそれぞれの質問について、一番よく当てはまる数字1つに○をつけてください。

◆ あなたの健康状態は？ (一番よく当てはまる数字1つに○をつけてください。)

最高に良い 1 とても良い 2 良い 3 あまり良くない 4 良くない 5

◆ 1年前と比べて、現在の健康状態は良くなりましたか？

最高に良い 1 とても良い 2 良い 3 あまり良くない 4 良くない 5

◆ 以下の質問は、日常よく行われている活動です。あなたに健康上の理由で、こうした活動をするのがむずかしいと感じますか？むずかしいとすればどのくらいですか？

ア) 激しい活動、たとえば、二足けんめい走る、重い物を持ち上げる、激しいスポーツをするなど	1	2	3
イ) 適度の運動、たとえば、家や庭のそうじをする、1〜2時間散歩するなど	1	2	3
ウ) 少し重いものを持ち上げたり、運んだりする(たとえば重い物袋など)	1	2	3
エ) 階段を数階上までのぼる	1	2	3
オ) 階段を1階上までのぼる	1	2	3
カ) 床を前に曲げる、ひざまずく、かがむ	1	2	3
キ) 1キロメートル以上歩く	1	2	3
ク) 数百メートルくらい歩く	1	2	3
ケ) 100メートルくらい歩く	1	2	3
コ) 自分でお風呂に入ったり、着がえたりする	1	2	3

◆ 過去1ヶ月間に、仕事やふだんの活動(家事など)をするにあたって、身体的な理由で次のような問題がありましたか？	いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	ぜんぜんない
ア) 仕事やふだんの活動をする時間をへらした	1	2	3	4	5
イ) 仕事やふだんの活動が思ったほど、できなかった	1	2	3	4	5
ウ) 仕事やふだんの活動の内差しによっては、できないものがあった	1	2	3	4	5
エ) 仕事やふだんの活動をするのがむずかかった(たとえばいつもより努力を必要としたなど)	1	2	3	4	5

◆ 過去1ヶ月間に、仕事やふだんの活動(家事など)をするにあたって、心理的な理由で(たとえば、気分が落ち込んだり不安を感じたりしたために)、次のような問題がありましたか？

ア) 仕事やふだんの活動をする時間をへらした	1	2	3	4	5
イ) 仕事やふだんの活動が思ったほど、できなかった	1	2	3	4	5
ウ) 仕事やふだんの活動がいつもほど、集中してできなかった	1	2	3	4	5

◆ 過去1ヶ月間に、家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんにつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか？一番よく当てはまる数字に○をつけてください。

ぜんぜん妨げられなかった	1	わずかに妨げられた	2	少し妨げられた	3	かなり妨げられた	4	非常に妨げられた	5
--------------	---	-----------	---	---------	---	----------	---	----------	---

◆ 過去1ヶ月間に、車の運転をどのくらい感じましたか？

ぜんぜんなかった	1	かすかな痛み	2	軽い痛み	3	中くらいの痛み	4	強い痛み	5	非常に激しい痛み	6
----------	---	--------	---	------	---	---------	---	------	---	----------	---

◆ 過去1ヶ月間に、いつもの仕事(家事を含みます)が痛みのために、どのくらい妨げられましたか？

ぜんぜん妨げられなかった	1	わずかに妨げられた	2	少し妨げられた	3	かなり妨げられた	4	非常に妨げられた	5
--------------	---	-----------	---	---------	---	----------	---	----------	---

◆ 表にあげるのは、過去1カ月間に、あなたがどのように感じたかについての質問です。一番良くあてはまる数字に○をつけてください。

	いつも	ほとんど	ときどき	まれに	いぜん
ア) 完気がいばいでしたか?	1	2	3	4	5
イ) かなり神経質でしたか?	1	2	3	4	5
ウ) どうにもならないくらい、気分が落ち込んでいましたか?	1	2	3	4	5
エ) おちついていて、おだやかな気分でしたか?	1	2	3	4	5
オ) 活力(エネルギー)にあふれていましたか?	1	2	3	4	5
カ) おちこんで、ゆううつな気分でしたか?	1	2	3	4	5
キ) 疲れはてていましたか?	1	2	3	4	5
ク) 楽しい気分でしたか?	1	2	3	4	5
ケ) 疲れを感じましたか?	1	2	3	4	5

◆ 過去1カ月間に、発火や粘り感を弱めるなど、火のつきあい、火のつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、時節にどのくらい弱けられましたか? 一番良くあてはまる数字に○をつけてください。

いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	いぜん
1	2	3	4	5

◆ 表にあげた各項目は、どのくらいあなたにあてはまりますか? 一番良くあてはまる数字に○をつけてください。

	そのとおり	ほとんど	何とも	ほとんど	いぜん
ア) 私は他の人にくらべて、病気になるやすいと思う	1	2	3	4	5
イ) 私は、人並みに健康である	1	2	3	4	5
ウ) 私の健康は、悪くなるような気がする	1	2	3	4	5
エ) 私の健康状態は非常に良い	1	2	3	4	5

2. 表に、あなたがご自分についてどのように考えているかを表す数字1つに○をつけてください。

	思わない	思う	思わない	思う	思わない	思う
ア) 私は少なくとも人並みに価値のある人間だと思う	1	2	3	4	1	2
イ) 私は長所をたくさん持っている	1	2	3	4	1	2
ウ) 自分を笑って見ると、自分が多分	1	2	3	4	1	2
エ) 私は物事を人並みにできる	1	2	3	4	1	2
オ) 私は誇りに思っていることがあまりない	1	2	3	4	1	2
カ) 私は自分を免責する人間だと覚えている	1	2	3	4	1	2
キ) 自分にだいたい満足している	1	2	3	4	1	2
ク) 自分を誇りに思っている人間だと覚えている	1	2	3	4	1	2
ケ) 自分は役立たずな人間だと時々感じる	1	2	3	4	1	2
コ) 自分はダメな人間だと覚えている	1	2	3	4	1	2

3. あなたのまわりで、あなたを羨ましくしてくれる人についてお答えをお願いします。
◆ 表の項目について、あなたを羨ましくしてくれる人がいますか。あてはまる数字に○をつけてください。「いる」に○をつけた場合は、そのような人が何人いるか、およその人数を書いてください。

	1. いる	2. いない
あなたが助けを必要としたとき、実際にたよるような人はいますか。	→()	→()
あなたがプレッシャーを感じたり緊張しているときに、リラックスマするのを助けてくれる人はいますか。	→()	→()
あなたの長所も短所も含めて、すべてを受け入れてくれる人はいますか。	→()	→()
あなたに何かあっても、あなたを気にかけてくれる人はいますか。	→()	→()
あなたが落ち込んでいたりと感じるとき、気分がよくなるように助けてくれる人はいますか。	→()	→()
あなたが動揺しているとき、あなたを落ち着かせてくれる人はいますか。	→()	→()

◆ 以上でお聞きした人たちの答えについて、あなたはどのくらい満足していますか。次のそれぞれについて、あてはまる数字に○をつけてください。

	非常に満足	まあ満足	少し満足	少し不満	わりと不満	非常に不満
あなたが動けを必要としたとき、実際にたよれそうな人からの答えについて	1	2	3	4	5	6
あなたがプレッシャーを感じたり、緊張しているときに、リラックスするのを助けてくれる人からの答えについて	1	2	3	4	5	6
あなたの長所も短所も含めて、すべてを受け入れてくれる人からの答えについて	1	2	3	4	5	6
あなたが荷があっても、あなたを気にかけてくれる人からの答えについて	1	2	3	4	5	6
あなたが落ち込んでいると感じるとき、気分がよくなるように助けてくれる人からの答えについて	1	2	3	4	5	6
あなたが動揺しているとき、あなたを落ちつかせてくれる人からの答えについて	1	2	3	4	5	6

お願い

次のページは回答がおわったら、切り離して水色の封筒に入れて

ください。できるだけ正直にお答えください。

4. あなたが、この草率簡に受けたケアマネジメント・サービス（プログラム）についておたずねします。もっともあてはまる数字それぞれ1つに○をつけてください。

- A. あなたが受けたプログラムの質はどの程度でしたか。
 1) 大変よい 2) よい 3) まあまあ 4) よくない
- B. あなたが望んでいたプログラムは受けられましたか。
 1) まったく受けなかった 2) そうでもなかった 3) だいたい受けた 4) 十分に受けた
- C. このプログラムは、どの程度あなたが必要としたものでしたか。
 1) ほぼすべて 2) だいたい 3) いくらかは 4) まったく必要としたものではなかった
 必要としたもの 必要としたもの 必要としたもの
- D. もし知人が同じ援助を必要としていたら、このプログラムを推薦しますか。
 1) 絶対にしない 2) しないと思う 3) すると思う 4) 絶対する
- E. 受けた援助の質に満足していますか。
 1) とても不満 2) どちらでもないか 3) ほぼ満足 4) とても満足
 少し不満
- F. 受けたプログラムは、あなたが自分の問題によりよく対処するのに役立ちましたか。
 1) 大いに役立った 2) まあまあ役立った 3) まったく役立たなかった 4) 悪影響を及ぼした
- G. 全体としてご蔽病について、あなたが受けたプログラムに満足していますか。
 1) とても満足 2) だいたい満足 3) どちらでもないか 4) とても不満
 少し不満
- H. まだ援助が必要となったとき、このプログラムをもう一度受けたいと思いますか。
 1) 絶対受けない 2) 受けたくないと思う 3) 受けると思う 4) 絶対受ける

5. あなたが初めて立てた目標は、どの程度達成されましたか？目標が達成できたときを100mとしたときに、今あなたが走っていると思う場所に▼をつけてください。



0m

50m

100m

A:性別 1. 男性 2. 女性
B:年齢 () 歳

1. 最初に、あなたがご自分の健康をどのように考えているかを教えてください。以下のそれぞれの質問について、一番よく当てはまる数字1つに○印をつけてください。

◆ あなたの健康状態は？ (一番よく当てはまる数字1つに○印をつけてください。)

最高に良い 1 とても良い 2 良い 3 あまり良くない 4 良くない 5

◆ 1年前と比べて、現在の健康状態はいかがですか？

最高に良い 1 とても良い 2 良い 3 あまり良くない 4 良くない 5

◆ 以下の質問は、日常よく行われている活動です。あなたは健康上の理由で、こうした活動をするのがむずかしいと感じますか？むずかしいとすればどのくらいですか？

	むと ずか しい	む ずか しい	少 し む ずか しい	な い ぜ ん ぜん し く
ア) 激しい活動、例えば、一生けんめい走る、重い物を持ち上げる、激しいスポーツをするなど	1		2	3
イ) 適度の運動、例えば、家や庭のそうじをする、1〜2時間散歩するなど	1		2	3
ウ) 少し重いものを持ち上げたり、運んだりする(例えば買い物袋など)	1		2	3
エ) 階段を数階上までのぼる	1		2	3
オ) 階段を1階上までのぼる	1		2	3
カ) 体を前に曲げる、ひざまずく、かがむ	1		2	3
キ) 1キロメートル以上歩く	1		2	3
ク) 数百メートルくらい歩く	1		2	3
ケ) 100メートルくらい歩く	1		2	3
コ) 自分でお風呂に入ったり、着がえたりする	1		2	3

◆ 過去1ヶ月間に、仕事やふだんの活動(家事など)をするにあたって、身体的な理由で次のような問題がありましたか？

	い つも	ほ ん と ん ど い つ	と ま ど き	ま れ に	ぜ ん ぜん な い
ア) 仕事やふだんの活動をする時間をへらした	1	2	3	4	5
イ) 仕事やふだんの活動が思ったほど、できなかった	1	2	3	4	5
ウ) 仕事やふだんの活動の内空によっては、できないものがあった	1	2	3	4	5
エ) 仕事やふだんの活動をするのがむずかしかった(例えばいつもより努力を必要としたなど)	1	2	3	4	5

障害者ケアマネジメント

アンケート用 (ご家族〈主な世話人〉用)

このアンケートでは、現在のあなたのお考えや状態について伺います。次ページからの質問をよんで、それぞれの回答のうち最も当てはまる番号をお答え下さい。もし現在のお考えにびびったりした回答や数字がないときも、近い数字を選び、できるだけすべての質問にお答え下さい。

回答は調査の目的のみに使用され、他の目的に使用されることはありません。また、このアンケートであなたのお名前などが精神保健福祉研究所の外部に知られることはありません。

アンケートの最後に回答にかかった時間をお尋ねします

数回に分けて行っている場合は、時間を覚えていてください

現在時刻： 時 分

- ◆ 過去1ヶ月間に、仕事やふだんの活動（家事など）をするにあたって、心理的理由で（例えば、気分が落ち込んだり不安を感じたりしたために）、次のような問題がありましたか？

いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	ぜんぜんない
1	2	3	4	5

ア) 仕事やふだんの活動をする時間をへらした	1	2	3	4	5
イ) 仕事やふだんの活動が思ったほど、できなかった	1	2	3	4	5
ウ) 仕事やふだんの活動がいつもほど、集中してできなかった	1	2	3	4	5

- ◆ 過去1カ月間に、家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的理由で、どのくらい妨げられましたか？ 一番良く当てはまる数字に○印をつけてください。

ぜんぜん妨げられなかった	わずかに妨げられた	少なからず妨げられた	かなり妨げられた	非常に妨げられた
1	2	3	4	5

- ◆ 過去1カ月間に、体の痛みをどのくらい感じましたか？

ぜんぜんなかった	かすかな痛み	軽い痛み	中くらいの痛み	強い痛み	非常に激しい痛み
1	2	3	4	5	6

- ③ 過去1カ月間に、いつもの仕事（家事を含みます）が痛みのために、どのくらい妨げられましたか？

ぜんぜん妨げられなかった	わずかに妨げられた	少なからず妨げられた	かなり妨げられた	非常に妨げられた
1	2	3	4	5

- ◆ 次にあげるのは、過去1カ月間に、あなたがどのように感じただかについての質問です。一番良く当てはまる数字に○印をつけてください。

いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	ぜんぜんない	
1	2	3	4	5	
ア) 元気がいっぱいでしたか？	1	2	3	4	5
イ) かなり神経質でしたか？	1	2	3	4	5
ウ) どうにもならないくらい、気分が落ち込んでいましたか？	1	2	3	4	5
エ) おちついていて、おだやかな気分でしたか？	1	2	3	4	5
オ) 活力（エネルギー）にあふれていましたか？	1	2	3	4	5
カ) おちこんで、ゆううつな気分でしたか？	1	2	3	4	5
キ) 疲れていていましたか？	1	2	3	4	5
ク) 楽しい気分でしたか？	1	2	3	4	5
ケ) 疲れを感じましたか？	1	2	3	4	5

- ◆ 次にあげた各項目は、どのくらいあなたに当てはまりますか？ 一番良く当てはまる数字に○印をつけてください。

そのとおり	ほぼあてはまる	何とも言えない	ほとんどあてはまらない	ぜんぜんあてはまらない	
1	2	3	4	5	
ア) 私は他の人にくらべて、病気になるやすいと思う	1	2	3	4	5
イ) 私は、人並みに健康である	1	2	3	4	5
ウ) 私の健康は、悪くなるような気がする	1	2	3	4	5
エ) 私の健康状態は非常に良い	1	2	3	4	5

- 2. 次に、あなたがご自分についてどのように考えているかをあわせて、以下のそれぞれの質問について、一番良く当てはまる数字1つに○印をつけてください。

思わない	そう思わない	そう思う	思う	
1	2	3	4	
ア) 私は少なくとも人並みに価値のある人間だと思う	1	2	3	4
イ) 私は長所をたくさんもっている	1	2	3	4
ウ) 自分を失敗者だと感じる人が多い	1	2	3	4
エ) 私は物事を人並みにできる	1	2	3	4
オ) 私は誇りに思っていることがあまりない	1	2	3	4
カ) 私は自分を見過ごしている人間だと見ている	1	2	3	4
キ) 自分にだいたい満足している	1	2	3	4
ク) 自分をもっと尊敬できたらと思う	1	2	3	4
ケ) 自分は役立たずな人間だと時々感じる	1	2	3	4
コ) 自分はダメな人間だと思うことが時々ある	1	2	3	4

- ◆ 過去1ヶ月間に、仕事やふだんの活動（家事など）をするにあたって、心理的理由で（例えば、気分が落ち込んだり不安を感じたりしたために）、次のような問題がありましたか？

いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	ぜんぜんない	
1	2	3	4	5	
ア) 仕事やふだんの活動をする時間をへらした	1	2	3	4	5
イ) 仕事やふだんの活動が思ったほど、できなかった	1	2	3	4	5
ウ) 仕事やふだんの活動がいつもほど、集中してできなかった	1	2	3	4	5

- ◆ 過去1カ月間に、家族、友人、近所の人、その他の仲間とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的理由で、どのくらい妨げられましたか？ 一番良く当てはまる数字に○印をつけてください。

ぜんぜん妨げられなかった	わずかに妨げられた	少なからず妨げられた	かなり妨げられた	非常に妨げられた
1	2	3	4	5

- ◆ 過去1カ月間に、体の痛みをどのくらい感じましたか？

ぜんぜんなかった	かすかな痛み	軽い痛み	中くらいの痛み	強い痛み	非常に激しい痛み
1	2	3	4	5	6

- ③ 過去1カ月間に、いつもの仕事（家事を含みます）が痛みのために、どのくらい妨げられましたか？

ぜんぜん妨げられなかった	わずかに妨げられた	少なからず妨げられた	かなり妨げられた	非常に妨げられた
1	2	3	4	5

- ◆ 次にあげるのは、過去1カ月間に、あなたがどのように感じただかについての質問です。一番良く当てはまる数字に○印をつけてください。

いつも	ほとんどいつも	ときどき	まれに	ぜんぜんない	
1	2	3	4	5	
ア) 元気がいっぱいでしたか？	1	2	3	4	5
イ) かなり神経質でしたか？	1	2	3	4	5
ウ) どうにもならないくらい、気分が落ち込んでいましたか？	1	2	3	4	5
エ) おちついていて、おだやかな気分でしたか？	1	2	3	4	5
オ) 活力（エネルギー）にあふれていましたか？	1	2	3	4	5
カ) おちこんで、ゆううつな気分でしたか？	1	2	3	4	5
キ) 疲れていていましたか？	1	2	3	4	5
ク) 楽しい気分でしたか？	1	2	3	4	5
ケ) 疲れを感じましたか？	1	2	3	4	5

3. あなたのまわりで、あなたのまわりで、あなたを支え（ささえ）てくれる人についておたずねします。

◆ 次の項目について、あなたを支え（ささえ）てくれる人はいますか。あてはまる方に○印をつけてください。1.「いる」に○印をつけた場合は、そのような人が何人いるか、おおよその人数を書いてください。

あなたが助けを必要としたとき、実際にたよれそうな人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない
あなたがプレッシャーを感じたり緊張しているときに、リラクセスするのを助けてくれる人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない
あなたの長所も短所も含めて、すべてを受け入れてくれる人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない
あなたに何があっても、あなたを気にかけてくれる人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない
あなたが落ち込んでいたりと感じるとき、気分がよくなるように助けてくれる人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない
あなたが動揺しているとき、あなたを落ち着かせてくれる人はいますか。	1. いる	→()	人	2. いない

◆ 上でお聞きした人たちからの支え（ささえ）について、あなたはどのくらい満足していますか。次のそれぞれについて、あてはまる数字1つを○で囲んでください。

	非常に満足	まあ満足	少し満足	少し不満	わりと不満	非常に不満
あなたが助けを必要としたとき、実際にたよれそうな人からの支え（さえ）について	1	2	3	4	5	6
あなたがプレッシャーを感じたり、緊張しているときに、リラクセスするのを助けてくれる人からの支え（ささえ）について	1	2	3	4	5	6
あなたの長所も短所も含めて、すべてを受け入れてくれる人からの支え（さえ）について	1	2	3	4	5	6
あなたに何があっても、あなたを気にかけてくれる人からの支え（さえ）について	1	2	3	4	5	6
あなたが落ち込んでいたりと感じるとき、気分がよくなるように助けてくれる人からの支え（ささえ）について	1	2	3	4	5	6
あなたが動揺しているとき、あなたを落ち着かせてくれる人からの支え（さえ）について	1	2	3	4	5	6

次のページは回答が終わったら切り離して水色の封筒に入れてください。できるだけ正直にお答えください。

4. あなたの家族が、この半年間に受けたケアマネジメント・サービス（プログラム）についておたずねします。もっともあてはまる数字それぞれ1つに○をつけてください。

- A. あなたのご家族が受けたプログラムの質はどの程度でしたか。
- 1) 大変よい 2) よい 3) まあまあ 4) よくない
- B. あなたのご家族が望んでいたプログラムは受けられたとおもいますか。
- 1) まったく受けなかった 2) そうでもなかった 3) だいたい受けた 4) 十分に受けた
- C. このプログラムは、どの程度あなたのご家族が必要としたものでしたか。
- 1) ほぼすべて 2) だいたい 3) いくらかは 4) まったく必要としたものではなかった
- D. もし知人が同じ援助を必要としていたら、このプログラムを推薦しますか。
- 1) 絶対にしない 2) しないと思う 3) すると思う 4) 絶対する
- E. 受けた援助の量に満足していますか。
- 1) とても不満 2) どちらでもないか 3) ほぼ満足 4) とても満足
- F. 受けたプログラムは、あなたのご家族が自分の問題によりよく対処するのに役立ったと思いますか。
- 1) 大いに役立った 2) まあまあ役立った 3) まったく役立たなかった 4) 悪影響を及ぼした
- G. 全体として一般的にいて、あなたのご家族が受けたプログラムに満足していますか。
- 1) とても満足 2) だいたい満足 3) どちらでもないか 4) とても不満
- H. また援助が必要となったとき、このプログラムをもう一度受けたいと思いますか。
- 1) 絶対受けたい 2) 受けたいと思う 3) 受けると思う 4) 絶対受けない

ご協力ありがとうございました。質問は以上で終わります。

所要時間 _____ 分

どなたが実際にアンケートにご記入されましたか？

1. 家族（主な世話人） 本人のみが記入
2. ケアマネジメント従事者の手助けにより 家族（主な世話人） 本人が記入
3. ケアマネジメント従事者が記入
4. その他 _____

障害者ケアマネジメント

アンケート (障害者ケアマネジメント従事者用)

このアンケートでは、障害者ケアマネジメント従事者としての業務の理解度や実行の程度についてうかがいます。次ページからの質問をよんで、現在のあなたの状況に合う数字をお答えください。もし現在のお考えにびびったりした回答や数字がないときでも、近い数字を選び、できるだけすべての質問にお答え下さい。回答は調査の目的のみに使用され、他の目的に使用されることはありません。

A. 最初に、あなた自身と担当している（調査に参加している）利用者の方について、お伺いします。

- 1) あなたの性別を教えてください。
 1. 男性
 2. 女性
 （当てはまる番号に○を付けて下さい）
- 2) 障害者ケアマネジメントを開始する以前に、相談業務の経験はありますか？
 1. ある（約 年 ヶ月）
 2. ない

3) 資格をお持ちでしょうか？それほどのような資格ですか？ 当てはまる番号に○を付けて下さい。

1. ある（複数の場合は、自分の専門性として最も近いものを1つ選んでください）
2. なし

1. 社会福祉士	7. 言語聴覚士	13. 看護師
2. 介護福祉士	8. 理学療法士	14. 医師
3. 介護支援専門員	9. 作業療法士	15. 職業カウンセラー
4. 身体障害者福祉司	10. 臨床心理士	16. 栄養士
5. 知的障害者福祉司	11. 精神保健福祉士	17. ピアカウンセラー（JIL 認定）
6. 社会福祉主事	12. 保健師	18. その他（ ）

4) 勤務先はどこですか？（複数の場合は、最も多く時間を費やす場所または所属を1つ）

1. 在宅介護支援センター	7. 福祉ホーム	13. 更正センター
2. 入所授産施設	8. グループホーム	14. デイサービスセンター（施設）
3. 通所授産施設	9. 生活訓練施設（授産費）	15. 地域生活支援センター
4. 通所更正施設	10. 通勤費	16. 福祉センター（A型・B型）
5. 入所更正施設	11. 福祉工場	17. 医療機関
6. 療養施設	12. 作業所	18. 行政（ ）

アンケートの途中と最後に、所要時間をお尋ねします。

現在時刻 A: _____ 時 _____ 分

その他(具体的に)

B. 以下の項目について、最もよく当てはまる番号に○を付けて下さい。

I 障害者ケアマネジメント従事者ご自身について

基準	選択肢
①障害者ケアマネジメント従事者として初めて障害者の方を担当されてから、どれくらい経ちますか？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年未満 2. 1年以上4年未満 3. 4年以上7年未満 4. 7年以上10年未満 5. 10年以上
②あなたがケアマネジメント従事者として現在担当されている障害者の方は何人ですか？	() 名
③今までに担当された利用者の中で、途中でサービスを中断された方（ドロップアウトされた方）はいますか？ いるとすれば、それはどのくらいの割合でしょうか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当した利用者全体の75%以上が途中でサービスを中断した 2. 担当した利用者全体の50%以上75%未満が途中でサービスを中断した 3. 担当した利用者全体の25%以上50%未満が途中でサービスを中断した 4. 担当した利用者全体の25%未満が途中でサービスを中断した 5. サービスを途中で中断された方はいない
④あなたが行う業務全体の中で、あなたがケアマネジメント業務に費やす割合はどの程度ですか？ (◎担当するケースすべてを考慮する)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 20%未満をケアマネジメント業務に費やしている 2. 20%以上40%未満をケアマネジメント業務に費やしている 3. 40%以上60%未満をケアマネジメント業務に費やしている 4. 60%以上80%未満をケアマネジメント業務に費やしている 5. 80%以上をケアマネジメント業務に費やしている

2

⑤ケアマネジメント業務の中で、あなたが所属する機関の建物の外で行う業務（利用者宅や関連機関への訪問等地域に向いての活動）は、どの程度の割合を占めますか？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従事者がケアマネジメントに関連して地域に向く時間は、ケアマネジメント業務の20%未満である 2. ケアマネジメント業務の20%以上40%未満である 3. ケアマネジメント業務の40%以上60%未満である 4. ケアマネジメント業務の60%以上80%未満である 5. ケアマネジメント業務の80%以上である
--	---

II 利用者(本研究の対象者のみ)に対する直接的援助について

⑥訪問・来所を含め、利用者とは直接会う頻度はどの程度ですか？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2ヶ月に1回未満である 2. 2ヶ月に1回以上、1ヶ月に1回未満である 3. 1ヶ月に1回以上2回未満である 4. 1ヶ月に2回以上4回未満である 5. 1ヶ月に4回以上である
⑦所属機関の建物の外で、この利用者とは直接会う頻度はどの程度ですか？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2ヶ月に1回未満である 2. 2ヶ月に1回以上、1ヶ月に1回未満である 3. 1ヶ月に1回以上2回未満である 4. 1ヶ月に2回以上4回未満である 5. 1ヶ月に4回以上である
⑧利用者との1回の面会/面接に費やす時間(移動時間は除く)は平均してどれくらいですか？	<ol style="list-style-type: none"> 1. 15分未満である 2. 15分以上30分未満である 3. 30分以上45分未満である 4. 45分以上60分未満である 5. 60分以上である

<p>⑨就労支援（一般就労／保護的・福祉的就労）については、どの程度考慮に入れていますか？ (⑨、利用者の状態により就労支援の必要性がなく、ここで回答することが不適切と考えられる場合→無回答 ⑩、利用者が就労している場合→⑫へ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まったく考慮していない 2. 就労の希望はあえて利用者本人に聞いたことはない 3. 利用者本人は就労の希望を示すこともあるが、まだ具体的に行動に移していない 4. 利用者本人は就労の希望を示しており、具体的な支援を開始しているが、ケアマネジメント従事者は就労支援についてはよく知らない 5. 利用者本人の意思により、積極的に福祉的就労／一般就労に向けた取り組みを継続的に行っており、ケアマネジメント従事者自身も就労支援について情報を増やしている
<p>⑩具体的にどの程度就労支援に関わっていますか？ 利用者が就労している場合のみ回答し、下記の該当項目にチェック（✓）を入れてください。 <input type="checkbox"/> 一般就労 <input type="checkbox"/> 保護的・福祉的就労</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まったく関与していない 2. 生活上の支援がほとんどで、利用者本人と現在の職場や仕事について話をする機会はほとんどない 3. 利用者本人と現在の職場や仕事について話をする機会はあるが、具体的な行動に及ぶことはない 4. 利用者が継続して就労していけるように、職場での事柄に関しても、利用者の意向を聞きながら積極的に職場と本人との関係調整を図るよう努めている 5. 利用者が継続して就労していけるように、必要場合は障害者の就労に詳しい支援者（機関）と連携を取り、積極的に職場と本人との関係調整を図るよう努めている
<p>⑪利用者の家族への支援については、どの程度考慮に入れていますか？（家族がいない場合は無回答）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まったく考慮していない 2. 家族とは話をする機会はほとんどない 3. 家族から相談を持ちかけられたときのみ、簡単に対応するようにしている 4. 家族からの相談に積極的に対応しているが、こちらから様子を尋ねることはない 5. 定期的に様子を尋ね、家族からの相談に積極的に対応している

<p>⑫当事者によるピアカウンセリングは活用していますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まったく活用していないし、地域でピアカウンセリングのサービスが提供されているかどうか分からない 2. 地域でサービスが適用されているかどうかについては把握しているが、利用者には希望を聞いたことはない 3. 活用したいと思っているが、地域でサービスが提供されていない 4. 活用したいと思っており、また地域でサービスも提供されているので、詳細な情報を収集しようと考えている 5. 利用者からの求めがあれば、積極的に取り入れていけるよう、すでに情報を収集している、またはすでに活用している
<p>⑬あなた御自身を含め、利用者の支援に携わっている専門職者はおよそ何名ですか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. この利用者については、自分以外は誰も関わっていない 2. 自分を含め、2～3人程度がこの利用者に関わっている 3. 自分を含め、4～5人程度がこの利用者に関わっている 4. 自分を含め、6～7人程度がこの利用者に関わっている 5. 自分を含め、8人以上がこの利用者に関わっている

Ⅲ 利用者（本研究の対象者のみ）に対する間接的援助について

<p>⑭この利用者に関わるケア会議は実際にどの程度開いていますか？支援開始から半年未満の場合は、下記にチェック（✓）を入れたうえで、予定開催頻度としてお答えください。 <input type="checkbox"/> 支援開始から半年未満</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全く開いていないし、今後も開く予定はない 2. 支援開始時に1回だけ開いたが、今後は開く予定はない 3. ケア会議は支援開始時のものを含め、1年に2回程度開いている 4. ケア会議は支援開始時のものを含め、1年に3～4回程度開いている 5. ケア会議は支援開始時のものを含め、2ヶ月に1回以上開いている
--	--

<p>⑮平均で何名くらいがケア会議に参加しますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケア会議は開かれない 2. 利用者に関わっている支援者のうち、ケア会議に参加するのは全体の 25%未満である 3. 利用者に関わっている支援者のうち、ケア会議に参加するのは全体の 25%以上 50%未満である 4. 利用者に関わっている支援者のうち、ケア会議に参加するのは全体の 50%以上 75%未満である 5. 利用者に関わっている支援者のうち、ケア会議に参加するのは全体の 75%以上である
<p>⑯ケア会議には利用者本人も参加できますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本人のケア会議への参加は、関わっている支援者チームの意見の一致で基本的に認めていない 2. 支援者チームの中には本人のケア会議への参加を認める者もいるが、参加に難色を示す者が多いので、今のところは認めていない 3. 本人のケア会議への参加についての意見は分かれており、決めかねている 4. 本人の希望があればケア会議への参加を認めている 5. ケア会議への参加が可能であることを伝え、積極的に参加を促している
<p>補足質問：ケア会議は主にどこで開かれていますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開かれていないので回答不可能 2. 病院の中 3. 障害者ケアマネジメント従事者の勤務先 4. 3以外の地域の施設 5. 利用者の自宅

6

<p>⑰医療機関との連携は取れていますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関については把握していない 2. 医療機関について把握はしているが、連絡はまったく取っていない 3. 必要に応じて医療機関に連絡を取るが、ケア会議への参加は要請していない 4. 必要に応じて医療機関に連絡を取り、ケア会議への参加を要請するが、会議への出席はない 5. 必要に応じて医療機関に連絡を取り、ケア会議への参加を要請し、通常は出席してもらっている
<p>⑱研修講座やワークショップ、勉強会等へはどの程度参加していますか？ <small>㊦ここでは、障害者ケアマネジメント従事者としての知識や技術の向上を目的とする事柄はすべて含めるが、スーパービジョンは除く</small></p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最初に受けた国や自治体での養成研修以外は、まったく参加したことがない 2. 1年に1~4回の割合で参加する 3. 1年に5~8回の割合で参加する 4. 1年に9~12回の割合で参加する 5. 毎月1回以上参加する
<p>⑲スーパービジョン（グループ・スーパービジョンを含む）は受けていますか？ <small>㊦ここでスーパービジョンとは、処遇や利用者との関係などについて、客観的な目で点検してもらい、技能を高めるための指導を受けることを指しており、支援チームによるケア会議とは別</small></p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2ヶ月に1回未満である 2. 2ヶ月に1回以上、1ヶ月に1回未満である 3. 1ヶ月に1回以上2回未満である 4. 1ヶ月に2回以上4回未満である 5. 1ヶ月に4回以上、必要に応じてその他にも受けられる
<p>㉑この利用者に関する記録や文書の作成には、この利用者1人に関わる障害者ケアマネジメント業務全体のどの程度を占めますか？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 20%未満 2. 20%以上 40%未満 3. 40%以上 60%未満 4. 60%以上 80%未満 5. 80%以上

C. 次に、ケアマネジメント実践に必要な各項目が、以下の作業指標(Work Index)に整理し
てあります。項目毎に、ご自分の知的理解と実行程度をチェックしてみてください。なお、
評価に際しては、下記の「評価基準」をご参照下さい。

《評価基準》

知的理解(どの程度理解しているか)

- 5点：すでにほぼ完全に理解しているし、人にも説明できる。
- 4点：内容は理解できたが、人に説明するには自信がない。
- 3点：内容は何とか理解できた。
- 2点：おおまかにわかったが、一部の理解が危うい。
- 1点：何のことが全くわからない。

実行程度(どの程度実行しているか)

- 5点：日常的に自分なりに実践している。
- 4点：実践しているが上手くいかない、あるいは、実践する機会がない。
- 3点：わかっていないが実践していない。
- 2点：十分にわかっていないから実践できない。
- 1点：何のことが全くわからない。

評価事項1. インテーク(受理)

※ 各項目の具体的な内容については「言葉の説明・内容」を参照してください。
※ 評価基準は前ページを参照してください。

	どの程度理解していますか?					どの程度実行していますか?				
1. 利用者の発見	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 情報からの紹介	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 家族の相談	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 関係作り	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 包括的な状況把握	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 受理業務の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

— 言葉の説明・内容 —

- 1.利用者の発見 日常業務の中で発見、アウトリーチ、本人との相談、広報活動などの項目について心得ているか、もしくは実行しているか
- 2.情報からの紹介 口頭あるいは文章、直接あるいは間接、通常業務の内外、機関や職種の高エラキキー、返書などの項目
- 3.家族の相談 会前面接の是非、家庭訪問などの項目
- 4.関係作り 信頼関係、初回面談法、説明と同意、問題の整理とニーズの推測などの項目
- 5.包括的な状況把握 何を把握すべきか? 生い歴、病歴、職歴、家族歴、とりまく環境などの項目
- 6.受理業務の開催 対象選定、支援方向の概略、費用対効果の視点、資料準備などの項目

評価事項2. アセスメント(査定)

※ 各項目の具体的な内容については「言葉の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか?					どの程度実行していますか?				
1. 利用者本人との関係作り	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 関係者からの情報収集	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. ニーズの見定め	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. セルフケア能力と限界	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 家族の能力と限界	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 専門家や能力と限界	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 専門的ケアの具体的状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. 査定記録の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9. アセスメント表の作成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 言葉の説明・内容 ——

1. 利用者本人との関係作り 共同作業、場面を変え、モデルを提示し、相手を変えながら情報を得るなどの項目について心得ているか、もしくは実行しているか。
2. 関係者からの情報収集 照会、情報の質（誰がいつ何地でどのように探取したか、SWITH）などの項目
3. ニーズの特定 トレンドとニーズ、速いや遅く、モデルの提示、試行の提案などの項目
4. セルフケア能力と限界 できるADLとしているADL、IADL、姿勢性と障害の特定、肯定的視点などの項目
5. 家族の能力と限界 家族歴、家族成員の個々の想い、それぞれの支援体制、意見調整などの項目
6. ケア能力と限界 友人、職場同僚、近隣、宗教、クラブ、ボランティア、セルフヘルプ活動などの項目
7. 専門的ケアの真体的状況 専門機関、制度、専門家、5A（適量性、適質性、利便性、受容性、利用可能性）などの項目
8. 在宅介護の開催 設定、招集、司会、役割分担、記録などの項目
9. アセスメント表の作成 既存の各種ツール、ストーリー構成などの項目

評価事項4. インタベンション（介入）

※ 各項目の具体的な内容については「言葉の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか？					どの程度実行していますか？				
1. 利用者への直接介入	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 資源への関係作り	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 仲介（ブローカーリング）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 連絡（リンケージ）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 権利擁護（アドボカシー）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 調整（コーディネーション）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 教育・研修	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. ネットワーク形成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9. 資源の開発	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 言葉の説明・内容 ——

1. 利用者への直接介入 能力に応じて徐々に自立性を高める、共同作業などの項目
2. 資源への関係作り 資源のネットワーク、資源の配分と開発などの項目
3. 仲介（ブローカーリング） ニーズを満足する資源を見定める、専門職の情報源などの項目
4. 連絡（リンケージ） サービス提供資源と結びつける、説明や紹介、同伴などの項目
5. 権利擁護（アドボカシー） 資源にサービスを提供させるための工夫などの項目
6. 調整（コーディネーション） 親睦、合同研修、定例勉強会、共通記録様式、管理者の会議などの項目
7. 教育・研修 助言、解説、資料配付、情報提供などの項目
8. ネットワーク形成 カンファレンス、サービス調整会議、専門職の協会、学会や研究会などの項目
9. 資源の開発 必要な資源や機能を発見、機関への介入、組織への介入、行政への介入などの項目

評価事項5. モニタリング（追跡）

※ 各項目の具体的な内容については「言葉の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか？					どの程度実行していますか？				
1. 見守り体制作り	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 情報の見守り	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 計画の見直し	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 日常的な連携協力	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. モニタリングの方法	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

評価事項3. プランニング（計画策定）

※ 各項目の具体的な内容については「言葉の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか？					どの程度実行していますか？				
1. 長期目標と短期目標	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. ニーズの優先度判定	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 計画会議の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. パッケージプラン策定	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 手段表・役割分担表	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 案の提示と合意	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 言葉の説明・内容 ——

1. 長期目標と短期目標 生活目標の策定、夢の把握、現実化する手順などの項目
2. ニーズの優先度判定 当面急ぐニーズ領域の選択などの項目
3. 計画会議の開催 招集、司会、運営、記録などの項目
4. パッケージプラン策定 複数の小目標を設定し、それぞれを手順化するという項目
5. 手段表・役割分担表 最後に表化して各日に配布するという項目
6. 案の提示と合意 本人・家族・関係者との合意、修正合意などの項目

—— 首業の説明・内容 ——

1. 見守り体制作り 見守りの役割分担、連絡ルート、危機介入の想定、緊急会議などの項目
2. 環境の見守り 資源への介入、一貫性・継続性、開発・教育・情報提供などの項目
3. 計画の展開し 現場の情報収集、プランの調整・修正、期限の策定、定例会議などの項目
4. 日常的な連携協力 情報交換、情緒的交流、役割調整などの項目
5. モニタリングの方法 [利用者本人・家族・専門家]×[定基・定性]＝計6種という項目

評価事項 6. エバリュエーション (評価)

※ 各項目の具体的な内容については「首業の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか?									
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1. 計画実行の評価	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 目標達成度の評価	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 生活変化の評価	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 利用者・家族の満足度評価	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 地域資源の変化	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 評価会議の開催	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 各種評価尺度	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. 費用対効果の考え方	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 首業の説明・内容 ——

1. 計画実行度の評価 計画は予定通り実行されたか?という項目
2. 目標達成度の評価 当初の目的は達成されたか?という項目
3. 生活変化の評価 利用者の生活は変化したか?という項目
4. 利用者・家族の満足度評価 支援活動に利用者と利用者とその家族は満足したか?という項目
5. 地域資源の変化 この活動の前後で地域資源は変化したか?という項目
6. 評価会議の開催 支援期間終了の直前にあらかじめ設定しておくという項目
7. 各種評価尺度 症状評価、社会機能評価、QOL評価、家族評価などの項目
8. 費用対効果の考え方 効率と効果、費用とは何か?などの項目

評価事項 7. ターミネーション (終結)

※ 各項目の具体的な内容については「首業の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか?						どの程度実行していますか?								
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1. 新たなニーズの発見	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 継続支援機関への連絡	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. アフターケア体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 首業の説明・内容 ——

1. 新たなニーズの発見 新たなケアマネジメントサイクル、再査定と再契約などの項目
2. 継続支援機関への連絡 情報の要約、フェイドアウトなどの項目
3. アフターケア体制 連絡先・再開可能性の説明、危機介入の手順などの項目

評価事項 8. 関連技術

※ 各項目の具体的な内容については「首業の説明・内容」を参照してください。

	どの程度理解していますか?						どの程度実行していますか?								
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1. 記録方法	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. チームワーク	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. カンファレンス	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. スーパービジョン	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. ストレス対処法	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

—— 首業の説明・内容 ——

1. 記録方法 水記録(カルテ、SOAPなど)、二次記録(専門職のまとめ)、三次記録などの項目
2. チームワーク 各職種・各機関の能力と限界を知る、推論する、討論する、連携方法などの項目
3. カンファレンス 計画、設定、運営、司会、報告、記録、定例化などの項目
4. スーパービジョン 同職種もしくは異職種、定期的もしくは不定期、職場内外、メディア利用、研究会などの項目
5. ストレス対処法 休調管理、対人距離、問題解決法、ストレス発散などの項目

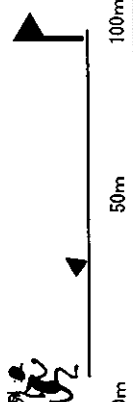
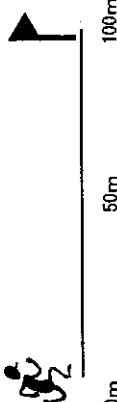
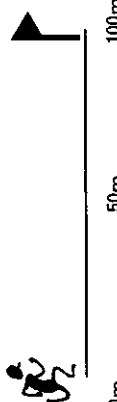

目標達成度 (Goal Achievement)

D. 支援期間開始時に、利用者と支援者（ケアマネジメント従事者）が話し合っ、支援期間中に達成しようとする生活目標を具体的に設定されたと思います。

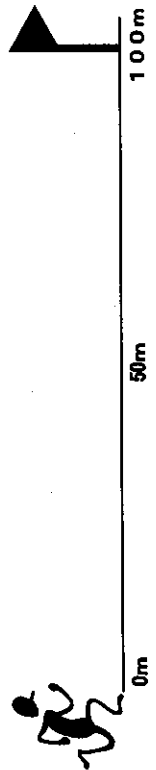
① どのような長期目標を立てましたか？

長期目標：

② 上記の長期目標を実現するための、小さな目標（短期目標）として、どのような目標を立てましたか？また、これらの目標を達成できた場合を100m（ゴール）とすると、それぞれのくらいまで目標は達成されましたか？現在あなたと利用者の方が走っていると思われる場所には、それぞれ▼印をつけて下さい。

<p>短期目標：例 朝起きたら、必ず「おはよう」とあいさつをする。</p>	
<p>短期目標 1：</p>	
<p>短期目標 2：</p>	
<p>短期目標 3：</p>	

③ 最後に、全体的にみて、目標はどの程度達成されましたか？目標を達成できた場合を100mとしたときに、現在あなたと利用者の方が走っていると思われる場所に▼印をつけて下さい。



御協力ありがとうございました。質問は以上で終わります。

回答開始時刻 A からの全所要時間 _____ 分間

調査およびアンケートに関するご意見

質問の量について

回答にかかった時間について

質問の内容について（具体的に書き下さい）

提出期限について

障害者ご本人と家族の回答で気づいたこと

調査全体について

その他

ケアマネジメント研修必修項目研究

分担研究者 門屋充郎

社会福祉法人慧誠会 帯広ケア・センター所長

研究要旨

本分担研究の目的は、国及び都道府県が実施している障害者ケアマネジメント従事者養成研修及び上級研修における研修必修項目を特定することにある。質の高いケアマネジメント実践をするために必要な研修項目について、アンケート調査を行い、分析、検討することから研修項目を特定し、最終的には研修のためのガイドラインを作成したい。

都道府県においては障害者ケアマネジメント従事者養成研修及び上級研修が、国の研修プログラムに準拠するかたちで実施することとされているが、その実施方法、研修内容は都道府県によって異なっており、その実態把握はなされていない。

本研究は、質の高いケアマネジメント支援を行えるようになるための研修項目について検討する。その中でも、短期間で得られる技術、実践活動のなかで獲得できるもの、長期の経験と実践研修を重ねることによって得られるものを見定める。そのため障害者ケアマネジメント従事者にアンケート調査を行った。現在集計・分析の途中にあり、ここではその一部の概要を報告する。

予備調査に用いた研修必修項目の選定においては、①先行研究 ②作業指標（WI）③デルファイ調査を行った。これらをもとに予備調査を実施し、その結果の検討から本調査アンケート用紙を作成し、7県において実施された障害者ケアマネジメント従事者養成研修受講者287名と上級研修受講者172名、合計459名から回答を得た。現在アンケート調査の分析中であり、単純集計の結果が得られた。25%以下の研修項目は29項目あり、10%以下の項目では「セクシャリティ、援助付母親業・父親業」であった。予備調査では25%以下は17項目あり、10%以下では「ガイドヘルプ、援助付母親業・父親業、障害乳幼児と母親支援」であった。本調査で75%以上の項目は「障害者支援の体制と利用者主体・自己決定」であった。予備調査では「利用者主体・自己決定、インフォームド・コンセント、障害の特性によるニーズとケア」であった。

これらの結果から障害者の具体的支援の項目に研修ニーズが低い傾向にあり、知識・理念優先傾向の項目に研修ニーズが高いと言える。しかし、ニーズの低い項目の中にも障害者自身にとって重要な項目もあると予測されることから、障害当事者の半構造面接を実施し、利用者側が必要としている研修項目も検討することとした。今後の予定としては、初級研修受講者と上級研修受講者の相違や要因分析、高齢者ケアマネジャーへの同アンケートによる必修項目の比較検討を行い、ケアマネジャーに共通する基本的、中核的研修必修項目を明らかにする。

研究協力者

安田裕子 スピリチュアルケア研究センター代表
小久保裕美 東海学園大学人間健康学科講師

1. 研究の目的

障害者ケアマネジメント従事者養成研修において、より質の高い実践をするためにどのような研修内容を身につけるべきかを明らかにし、今後実施が予定されている初級及び上級のケアマネジメント従事者養成研修における研修必修項目について特定し、最終的には研修ガイドラインの作成を行う。

ケアマネジメント技術の質の向上のためには、短期間で得られるものと、実践活動で得られるもの、長期の経験と研修を重ねることで見定める。

2. 研究の手続き・調査実施手順

①アンケート調査表を作成し、予備調査を実施して最終調査項目を決定した。予備調査は都道府県が実施する障害者ケアマネジメント従事者養成研修会の受講生に対して調査の協力を依頼し、40名のデータを集めた。②予備調査の結果をもとにデルファイ調査を実施した。③予備調査・デルファイ調査をもとに本調査のアンケート調査票を作成した。④本調査を7県において実施し459名からデータを集めた。⑤比較検討するために介護保険ケアマネジャー103名から同アンケート調査票によりデータを集めた。⑥身体障害者8名、知的障害者8名、精神障害者8名の当事者に半構造面接を実施した。

3. 調査対象者

①障害者ケアマネジメント従事者養成研修受講者287名、②障害者ケアマネジメント上級研修受講者172名、③介護保険ケアマネジャー103名、④障害当事者半構造面接24名

4. 調査期間

①予備調査は平成16年7月13日～8月

18日の間に実施した。②本調査は平成16年10月1日～平成17年1月30日の間に実施した。③介護保険ケアマネジャーの調査は平成16年10月～平成17年1月30日の間に実施した。④精神障害者当事者半構造面接は平成16年12月24日、身体障害者当事者半構造面接は16年12月27日、知的障害者当事者半構造面接は平成17年2月24日にそれぞれ実施した。

5. 調査研究に対する倫理

アンケート調査は対象者が特定できないようにID化して統計的処理を行った。さらに、知りえたプライバシーは分担研究者のもので保護する。また当事者半構造面接では当事者に秘密厳守の旨を伝え、インタビュー用紙は当事者が特定できないよう配慮し分担研究者が保管する。

6. 調査項目

予備調査に用いた研修必修項目は、大項目、中項目、小項目に分類した。

大項目は①利用者サービス、②障害、③ケアマネジメントの知識・技術、技術の習得方法、④地域、⑤組織の5つである。中項目は大項目と対照させて①理念、考え方、援助姿勢、方法。②理念・考え方、制度、支援、方法。③ケアマネジメントの知識、プロセスと技術、技術の習得方法。④理念、姿勢、方法。⑤理念、姿勢、方法とし、小項目を合わせて148項目の調査票を作成した。予備調査及びデルファイ調査の結果から項目を調整し本調査は151項目を作成した。

7. 予備調査結果（属性）

性別：男性17名、女性23名、平均年齢37.6歳で最長年齢は55歳、最少年齢は24歳。 職種：社会福祉士4名、医療ソーシャルワーカー12名、精神保健福祉士12

名、看護師・保健師5名、その他10名。
所持資格：社会福祉士9名、精神保健福祉士12名、看護師・保健師3名、MSW1名、その他10名、未記入5名。

障害者ケアマネジメント従事者としての年数：2年以下28名、3年以上7名、未記入5名。

学歴：専門学校7名、大学卒24名、大学院卒1名、その他7名。不明1名。

障害者ケアマネジメント従事者養成研修受講年度：11年度3名、12年度2名、13年度4名、14年度4名、15年度12名、16年度1名、未記入14名。

上級研修受講年度：15年度1名、16年度13名、未記入26名。

研修障害分野：身体0名、知的2名、精神25名、身体・知的6名、精神・知的1名、未記入6名。

経験年数：0～5年13名、6～10年7名、16～20年4名、21年以上5名

障害者ケアマネジメント従事者年数：0～1年11名、2年17名、3年2名、4年3名、5年2名、未記入5名。

現在のケアマネジメント担当者数：0～5人13名、6～10人16名、11～20人1名、21～30人1名、31～40人2名。

スーパービジョンの有無：なし28名あり8名、未記入4名。

8. 本調査結果（属性）

性別：男性146名、女性309名、不明4名。

年齢：20歳代100名、30歳代129名、40歳代143名、50歳代71名、不明16名。

平均年齢：39歳、最長年齢67歳、最少年齢22歳。

介護支援専門員資格：有125名、無313名、不明21名。

学歴：専門学校136名、大学卒195名、大学卒5名、その他104名（高卒15名、短大卒43名、不明45名）、未記入19名。

障害者ケアマネジメント従事者養成研修受講年度10年度2名、11年度14名、1

2年度41名、13年度17名、14年度40名、15年度56名、16年度277名、未記入・不明13名。

上級研修受講：有172名、無279名。

研修障害分野：身体130名、知的214名、精神176名、高齢者17名。

現在のケアマネジメント担当者数：0～5人204名、6～9人19名、10～19人9名、20人以上23名。

職名、経験年数、障害者ケアマネジメント従事者経験年数、国家資格については集計が終わっていない。

9. 予備調査と本調査の属性の比較

平均年齢は30歳代後半で予備調査が1.4歳若い。本調査では男性の割合が低く女性の割合が10%ほど高い。

大学卒が予備調査において17.7%多くなっている。上級研修受講者は予備調査が35%で、本調査では37.5%である。現在の担当者数は予備調査においては6～10名が40%で、次いで5人以下32.5%で、17.5%が0である。本調査においては44.4%が5名以下で6～10人は4.1%であり、44.5%が担当数0であった。実際のケアマネジメント業務を行っていない率が研修項目に影響するかどうか検討する必要がある。同様に学歴との関係も検討する。

10. 調査項目の比較

本調査で25%以下の回答のあった研修項目は29項目であり、10%以下の項目はセクシャリティ、援助付母親業・父親業であった。予備調査では25%以下は17項目であり、10%以下の項目はガイドヘルプ、援助付母親業・父親業、障害乳幼児と母親支援であった。本調査で75%以上の項目は障害者支援の体制と利用者主体・自己決定であった。予備調査の75%以上の項目は利用者主体・自己決定、インフォームド・コンセント、障害の特性によるニーズとケアであった。これらの結果から、障害者の具体的支援の項目の研修ニーズが低い傾向にあるが、低い項目

の中にも障害者本人にとって重要な項目もありうる。

大項目の優先順位においては、予備調査、本調査ともに1位は「ケアマネジメントの知識・技術、技術の習得方法」であった。2位は「利用者サービス」、3位は「障害」、4位は「地域」、5位は「組織」の順であった。

1.1. 今後の予定

今後の予定としては、アンケート票から上級研修者と初級研修者の違いや、その他の要因分析を行い、必修研修項目を抽出する。高齢者ケアマネジャーとの必修項目の比較検討を行う。障害当事者の半構造面接によって得られた研修項目と本調査の必修項目との比較検討を行う。

ケアマネジャーに共通する中核となる研修必修項目を選定する。障害者ケアマネジメント従事者が求める研修項目について多角的に検討する。

以上

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

ケアマネジメント研修実態調査研究

分担研究者 坂本洋一 教授

研究要旨；全国の障害者ケアマネジメント従事者養成研修と上級者研修に関して、都道府県の障害者ケアマネジメント担当者や研修受講者に対して、アンケート調査を実施した。その結果、都道府県によって研修の実施方法に違いが見られた。国の研修内容に強く影響されており、国の研修内容の充実が直接都道府県に影響を与えていくものと推察される。研修の受講者は、研修プログラムに概ね満足している。

A. 研究目的

都道府県の障害者ケアマネジメント実施体制等と都道府県主宰の障害者ケアマネジメント従事者養成研修と上級者研修（地域によってはフォローアップ研修及びスキルアップ研修と呼ばれている場合もある。）の実態を把握し、研修の課題を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

全国の都道府県の障害者ケアマネジメント担当者に対して研修の実施体制等について自記式アンケート調査を郵送法によって実施した。さらに、都道府県の主宰する障害者ケアマネジメント従事者養成研修及び上級者研修の受講者に対して、主宰者によるアンケート調査を実施し、都道府県単位でアンケート調査票を回収した。

（倫理面への配慮）

調査研究に関して回答した受講者が特定できないように、ID番号で統計的な処理を行った。また、調査によって知り得たプライバシーは分担研究者のもとで保護する。

C. 研究成果

研修の実施方法は障害種別毎に実施するタイプは少なく、身体障害と知的障害の合同で

精神障害分野は別途実施するタイプが比較的多かった。上級研修は3障害合同で実施している都道府県が多い。また、ケアマネジメントに関する勉強会を地域で開催している都道府県は少ない。研修受講者に対するアンケート調査結果では、研修プログラムへの満足度は比較的高く、概ね研修に対して肯定的である。

D. 考察

国の主宰する研修の影響が強く、今後の国研修の動向によって、都道府県の研修成果も左右されるので、国の研修の充実が望まれる。また、3障害合同の研修を実施している都道府県もかなりあるが、ケア計画作成演習は障害種別で実施するタイプもかなりあり、研修における演習の運営方法が課題となる。

E. 結論

研修の受講者は概ね研修に満足しているが、研修の実施方法では、3障害合同で実施していない都道府県もかなりあり、特にケア計画作成演習では、精神障害分野は別途実施している。したがって、合同で研修できるケア計画の様式、研修の内容の検討を行う必要がある。